

令和7年度 第1回 幸区地域包括支援センター運営協議会議事録

- 1 会議名 令和7年度第1回幸区地域包括支援センター運営協議会
- 2 開催日時 令和7年9月11日（木） 午前10時00分から11時40分まで
- 3 開催場所 さいわい健康福祉プラザ ホールA
- 4 出席者
 - (1) 委員 三條委員（会長） 豊田委員（副会長） 髭内委員 村田委員 高村委員
田中委員 山本委員 渡部委員（8名）
 - (2) 事務局 幸区地域みまもり支援センター 荒木所長 上久保副所長
幸区役所高齢・障害課 荒平課長 石松係長 高野職員
幸区役所地域ケア推進課 小田係長
幸区役所地域支援課 外村係長
- 5 欠席者 幸区役所地域支援課 高田係長
- 6 傍聴者 2名
- 7 議題（公開）
 - (1) 地域包括支援センターについて
 - (2) 令和7年度幸区課題整理シートの報告
 - (3) 地域包括支援センターから市・区への提案について
 - (4) その他：第2回会議の日程について（事務局提案）

8 配布資料

【事前郵送での配布資料】

《参考資料》

川崎市地域包括支援センター【幸区版】パンフレット

令和7年度地域包括支援センター（6機関）事業計画・報告・評価書

川崎市介護保険条例（抜粋）

川崎市地域包括支援センター運営協議会規則

委員名簿

《当日使用資料》

次第

- 資料1 地域包括支援センターとは
- 資料2 地域包括支援センターの現況について
- 資料3 令和6年度包括主催の地域会議
- 資料4 地域情報（全区包括別／区内町別）
- 資料5 令和7年度幸区課題整理シート
- 資料6 「市・区への提案」令和6年度／7年度分
- 委員名簿

【当日配布資料】

さいわい区版『るるぶ』

9 審議経過

【開催宣言】 司会（石松係長）

【伝達事項】 事務局より

- ・「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条に基づき、会議は公開。
- ・会議録の作成には委員名を記載するものとし、文書開示請求があった場合には委員名は原則開示。

【会議成立の報告】

委員8名のうち全員出席。委員の半数以上の出席あるため会議成立報告。

【所長挨拶】

【出席者自己紹介（異動者のみ）】

【資料の確認】

【会長挨拶】

【議事開始宣言】

<議題1>

「地域包括支援センターについて」

【資料1～4について事務局より説明】

【質疑応答】

豊田委員

各地域の課題や取組については資料5の課題整理シートと関連づけて話をした方がよいと思う。先に説明をしていただきたい。（委員一同了承し、議題2報告へ）

<議題2>

「令和7年度幸区課題整理シートの報告」

【資料5について事務局より説明】

【質疑応答】

田中委員

資料2の（1）総合相談支援の新規登録者数について、令和6年度かなり減っているが、考えられる要因はあるのか。

事務局

その要因については区にも情報がない。

豊田委員

資料5で出された課題に対して、区から市への要望や情報共有などはなされているのか。

事務局

各区から上げた課題は最終的に地域包括ケア推進室に吸収される。

今年度どのように取り組んでいくかは、市の担当者を交えた会議で議論したあとに各区で検討するという流れになっている。

豊田委員

各区に共有する問題もあるが、区ごとに様々な特徴があったように感じる。

幸区では特に河原町でいつも様々な意見が出る。河原町自体が同じような問題を抱えた人が集まりやすいため、生活の場面で取り組める手段も沢山あり、問題を解決しやすいのではないかと。

区の権限次第では取り組み方が変わってくると思うが、これまでの仕組みだけでなく、幸区で発信しながら、区同士で連携し同じ課題について共に取り組むなどしてはどうか。市全体でまとめることも必要だが、仕組みから見直すべきではないかと率直に感じた。

職員教育、ライフスタイルの違いなど、細かい課題もあると思うが、今後を見越したアプローチの方法や、常勤職として専門知識がある人の配置が特に必要なのではないかと。

三條会長

河原町の高齢化率は以前から突出しているが、各地域でも後期高齢者、介護認定者数の割合は高い現状。河原町団地は所得、ADL、認知能力の低い方や、外国籍の方が比較的集まると思う。より多くの介護や周りの助けが必要な方を集約させ、モデルケースのような地区にできないだろうか。

介護に興味のある若い世代は相当少ないが、これから先福祉業界で働く人たちの教育を集中的に得られるような地区にできれば、そこから各地に指導者が巣立っていくような形にもできる。様々な資源や課題を一定の地域に集めればより共有化しやすく、取り組みも進めやすいと思う。

豊田委員

河原町団地は、さいわい東だけでなく、他の包括とも話し合いながらかわり方を検討した方がいいと思う。今それぞれの地域にある仕組みを連携させた方がいいと思う。

福祉保健だけでなく、住宅、医療、権利擁護など多くの問題を抱えた支援が必要な人たちがいる河原町は、市全体としてもおそらく、特殊な地域だと理解されている印象。この地区の問題が解決されないと、次の方向には向かっていけないのではないかと。もっと取り組みを進めていけないと感じる。

村田委員

河原町団地は市営、県営、分譲と分かれているが、自治会もしっかりしている。各階ごとに

見守り活動も行っているが、問題を抱えている人への対応で自治会も苦慮している。
河原町団地の特徴を考慮し、包括だけの問題と捉えず、自治会等とも協力していかないといけないと思う。

豊田委員

河原町団地の強みとして、きちんと横のつながりができている。見守りしようという意識が高い人たちがいる一方で、次の代になかなかつながっていかないのも課題。問題点だけでなく、これまでの活動の成果も含めた良い点もみんなで共有化することが必要。
今後の課題として、これまでのような方法でボランティアを募り、活動を続けていくのは難しさがあるため、集まった人材をどのようにフォローしていくかについても検討が必要だと思う。

村田委員

河原町団地の見守り活動については先進的な取り組みとして特集され、NHKで全国放送されたことがある。他の地域は民生委員と包括が主に共同しているが、河原町は自治会や各階役員の協力もあり素晴らしい地区だと思う。

三條会長

区ではなく市でこの問題をどの程度まで検討していただけるのかに期待したい。

豊田委員

政令市は市の方針に沿って区が動いているが、幸区は17万人という中小自治体に近い規模。川崎市は高齢化の問題もあるが、若い世代が増えていてある意味良いバランスができている。その良さを、区への分権化というところで取り組んでほしい。
地域みまもり支援センターという組織は、福祉事務所の中で様々な職種が集まって横の連携を作っており、他の市にはない良い取り組み。高齢だけでなく児童や障害とも課題を一緒に考え、連携して取り組んでほしい。

三條会長

幸区から積極的に発信していけばいいが、マンパワーとしてはどうかという課題がある。

豊田委員

課題整理シートの中で各包括が挙げている項目はアセスメントされており、この先どうなるのかが予想できる。地域に住む人の考え方も変わってきている現状、地域活動への考え方も変わってきている。今までやってきたことが通用しなくなっているからこそ民生委員やボランティアをやりたいと思う人が少なくなっているのだと思う。

三條会長

課題は集約させないと、解決は難しいと思う。

本日参考資料として配布された『るるぶ』は、転入した高齢者がいる世帯の方には渡すなどを決めて有効活用してはどうか。

課題を各地域あげているが、取組みが遅々として進まないという印象がある。同じような課題を集約して考え、問題のある人に集中的に取り組んで支援するべきではないか。

<議題3>

「地域包括支援センターから市・区への提案について」

【資料6について事務局より説明】

【質疑応答】

豊田委員

提案事項に関して、予算、方針など具体的に次年度以降の事業に対して反映はあるのか。

事務局

健康福祉局から働きかけ、関係部署へ意見を聞いたり、取組みを依頼したりする。区だけでは取組めないことも多いが、区からより積極的に発信し、情報共有をしたいと考えている。区で検討すべき独自の課題もあるが、共通している課題もあるため、市全体としても検討が必要。

提案事項をすぐに解決するというのは難しいが、連続して提案をして頂き、情報共有を続ける中で回答の状況を確認し、区からも積極的に回答を求めていくことが大事かと思う。区として出来ることを考えていきたい。

豊田委員

包括から提案してもらっているものはぜひ積極的に取り組んでほしい。

また、市からの回答を待つだけではなく、来年度の予算に反映するための期限や仕組みを包括へ明言した方がよいのではないかと。遅々として進まない印象というのは、毎年のように提案しているが回答が来ない、という状況だからではないか。

区から市へ積極的に投げかけ、できるところは早急に進めてほしい。

事務局

意見は伝えたいと思う。

三條会長

いつまでに提案すれば来年度の予算に組み込めるのか。

事務局

この時期ではもう来年度の予算には間に合わず、令和9年度以降の予算要求になる。

三條会長

例えば各提案に対してその一部を包括が先に取り組み、その成果を証拠として結果を提示したうえで提案であれば予算として話が通りやすいのか。

事務局

予算規模にもよる。包括の委託費の中でできる範疇で次年度以降に上乗せという形であれば比較的通りやすくなるが、次年度の予算に大幅に追加するとなると、幸区の 1 包括にだけ予算追加はできないため、その事業が幸区全体に行き渡っているものなのか、全市的に有効なものかということを健康福祉局の方で把握しなくてはならない。

行革や財政にも関係するので、比較的話は進みにくくなる。

三條会長

予算に余剰金はないのか。

事務局

内容が明確かつ必要性が認められれば、区の予算で課題事業として取組むことは可能。

三條会長

各包括との議論を進め、取り組みを決定した後、区の予算で取り組むことへの検討に話を進めることは可能か。

事務局

工面できないことはない。

三條会長

人員不足に対して予算を出すことはできるか。

事務局

人件費のために出すことは難しい。

0 からやるとなるとマンパワーがかなり厳しい現状もあるので、予算化されているものをいかに有効に使っていくか、という発想も必要かと思う。既存の事業を続けていくための検討も重ねながら、まずは優先順位をつけることが大事かと思う。

どの問題に取り組むかなどは包括と話し合いを重ね、取り組みが進んだものに関しては次回以降報告したい。

豊田委員

予算化が難しいことはよく理解できる。少しでも提案したことが報われた、結果が出たなど思えるよう、できることからぜひ進めてほしい。

三條会長

包括が「提案してよかった」と思える回答が得られることを期待している。

【議事終了宣言】

＜その他＞

事務局より「第2回運営協議会の日程について」の提案

【事務局より候補日を挙げ、委員の都合確認の上、日程決定】

令和8年2月12日(木) 10時から11時30分、幸区役所4階第4会議室にて開催。

【閉会宣言】

終了

文責：高齢者支援係 高野